

平成30年度「こころのケア」シンポジウムの開催

兵庫県こころのケアセンターの日頃の研究成果の発表と、「虐待の社会的コスト」についての講演から成る「こころのケア」シンポジウムを開催いたしました。

- 1 日時：平成30年10月31日（水）13：30～16：30
- 2 場所：兵庫県こころのケアセンター大研修室
- 3 参加者数：教育・保健・福祉関係業務従事者や自治体職員など約140人
- 4 内容

開会にあたり、加藤 寛センター長が、シンポジウム開催の趣旨を含め、あいさつを行いました。

その後、大澤 智子研究主幹が、「災害救援組織における惨事ストレスとメンタルヘルス対策のこれまでとこれから」と題する研究報告をしました。トラウマ・PTSD等の専門機関としての当センター開設の経緯から、消防、警察、海上保安庁等の災害救援組織における惨事ストレス対策や当センターとの関わり、また当センターが担ってきた役割や取り組んできた研究について説明しました。

次に、和田 一郎花園大学社会福祉学部児童福祉学科准教授に、「子どもの虐待の社会的コスト」について講演をいただきました。

この講演では、子どもの虐待における現状と課題の認識に始まり、行政による虐待防止政策の推進状況について報告がありました。その後、虐待にかかる直接的・間接的なコストについて、和田先生が様々な観点から種々の手法により独自の研究、試算を試みられたこと、また、わが国の政府・行政が持つ虐待にかかる予算は、米国や西欧諸国と比較して著しく乏しい状況にあること等の解説がありました。

虐待により毎年、膨大な社会的損失が発生していることから、わが国においても虐待にかかる行政予算を増やし、子育て家庭への支援を厚くしていくことで、子どもの虐待をなくしていくことが重要であるとのお話がありました。

今回の講演は、子どもの虐待に関して、今までなかった新たなアプローチによる「コスト」に関する研究内容で、参加者は非常に興味深く聞き入り、実り多いシンポジウムとなりました。